

「『ガソリンがほしい』らしい」

「(端的にいう) ガソリンがほしい」

コミュニケーション



一般的意図
=「協力の原理にしたがって表現を行おうとする意図」

個別的意図
=「具体的発話によって、何らかの言いたいことを伝える意図」



日常会話

双方とも
コミュニケーションとして
同じだから
比較対象となる。

ある特殊な 時間と空間が
想定されたコミュニケーション
特殊な文脈がある。

個別的意図が存在する。

藝術家 A から鑑賞者 B へ
コミュニケーションとして伝わったこと

「具体的にはよくわからない。
しかし、自律的藝術作品
だから何か意味があるらしい。
車を描いた絵のように思える」

一般的意図 = 「協力の原理」に従おうとする意図
= **作品という自律的世界を構築**

佐々木健一 説
(渡辺解釈による)
藝術作品の場合

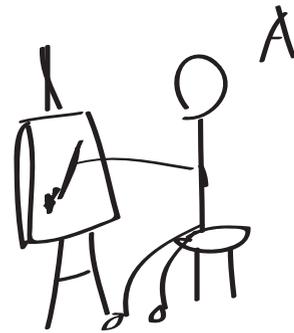
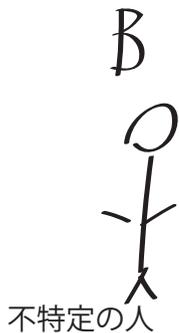
個別的意図 = 自律的作品全体を構成する一要素としての「部分」(渡辺の解釈)

普遍的な時間と空間において
なされるコミュニケーション。

特殊な文脈がない。

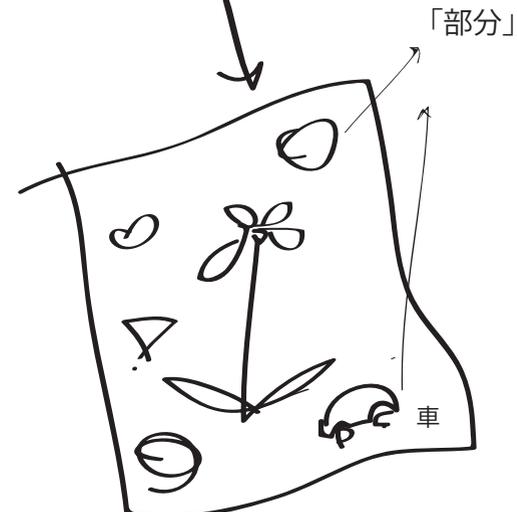
個別的意図 (作者の意図)
が存在しないコミュニケーション。

(佐々木説)



「花が綺麗だ
という気持ちを
作者の意図として
絵に托す。」

コミュニケーション



「しかし本当にそう言い切ってよいのだろうか」(渡辺 p.94、第4章へ)

自律的世界が構築された 絵画 「花」